

「ぎふ清流GAP」推進

農産物評価制度の県センター開所

県が新たに始める農産物の生産工程を評価する独自の制度「ぎふ清流GAP」の普及や相談の窓口となる推進センターの開所式が岐阜市下奈良の県福祉・農業会館で開かれた。

(舌間隆博)

センターは、県農畜産公社とJAグループ、県が派遣した職員ら4人で構成。環境保全や食品安全に留意して農産物を生産する農場を評価する同制度の普及などを担う。

開所式には、県農業会議の岩井豊太郎会長、JA岐阜中央会の櫻井宏会長ら約30人が出席した。

古田肇知事は「ぎふ清流GAPは、県産の農産物のブランド力を高めるための農業の要となる。センターを中心に盛り上げたい」とあいさつ。センター

「県産ブランド力を高める」



ー長に就任する県農畜産公社の宗宮正典理事長らとともに看板を設置した。

ぎふ清流GAP推進センターの開所を祝う関係者＝岐阜市下奈良、県福祉・農業会館